

徳島県総合計画審議会計画推進評価部会報告

- 1 開催日時 平成19年9月10日(月) 13:15~15:00
- 2 開催場所 徳島プリンスホテル サファイアルーム
- 3 出席委員 10名中9名出席
浜口伸一委員、原田幸委員、松崎美穂子委員、森田陽子委員、石田和之専門委員、植田美恵子専門委員、大南信也専門委員、高畑富士子専門委員、中川桐子専門委員
- 4 議 題 オンリーワン徳島行動計画の達成状況について
- 5 会議資料 資料1 「オンリーワン徳島行動計画」の達成状況について
資料2 「オンリーワン徳島行動計画」主要事業達成状況一覧表
資料3 「オンリーワン徳島行動計画」目標水準・数値目標達成状況一覧表(本資料には当日配付資料に会議での評価結果を追加して記載しています。)
資料 目標水準・数値目標 計画推進評価部会委員達成度評価表
資料 「目標水準・数値目標の達成度評価」結果集計表
- 6 審議の経過及び結果

(1) 目標水準・数値目標の達成度評価について

各部会委員による事前評価について

目標水準・数値目標を設定した415指標のうち、実績値が判明した401の指標について、実績値が目標値に達した297指標を「達成度1」とした。

そして、実績値が目標値に達していない104の指標について、「実績値は目標値達成には至っていないが、事業実施の目的は、ほぼ達成しているもの」を「達成度2」、「実績値が目標値から相当低いものとなり、未達成のもの」を「達成度3」として、各委員において、会議の事前に評価をした。

会議での評価方法について

ア各委員評価の「平均の四捨五入」をとりあえず評価結果とし、特に意見のある項目を議論したらどうか。

イ「県の自己評価と著しく違うもの」を特に議論したらどうか。

ウ目標値に対する実績値の割合が例えば70%なら達成度を2とするなど、「評価の基準を数値化」すべきでないか。

エ各委員の主観に基づく意見を出し合って協議すれば、それが客観的な評価になるのではないか。

との意見があり、ウについては今後の課題とし、今回は、ア及びイの方法により評価することとし、各基本目標ごとに区切って協議を進めることとなった。

個別指標についての主な意見

（「オープンとくしま」の実現）

「ボランティア人口」について

- ・前年度の数値からそれほど増えていないので、もっと努力が必要である。
- ・目標値が少し高すぎたのではないか。満足してはいけませんが、県人口からみると13万人はまずまずの数字である。

（「経済再生とくしま」の実現）

「農業協同組合数」、「森林組合数」について

- ・目標値達成は、3年間では難しい。目標が短期間すぎたのではないか。目標をもっと現実的なものにしてはどうか。
- ・従来、行政計画の目標値は、現実的な値にあわせる傾向が強かったので理想値を目標とすることは、一面評価できる。
- ・「達成度3」と評価された事業を、次の段階でさらに継続するのか廃止するのかなど、質的な評価を行い、PDCAサイクルとして機能させることが重要である。

「農林水産物ブランド品目育成数」について

- ・目標値の30品目は、もともと高すぎると思っていたが、一次産業は本県産業にとって重要であり、短期間ではなく継続することが重要である。
- ・前年度から3倍になっており努力の結果を認める。
- ・とくしま産品のことをよく聞くようになり、技術開発も含めてブランド化の成果がでてきたとの実感がある。また、ブランド数を多くするよりも特化することも大切ではないか。

各委員の事前評価の平均は「2.6」であったが、部会の評価は「達成度2」となった。

「就労支援プラザを活用した就職件数」について

- ・雇用状況がよいとの実感はない。「県就労支援プラザを活用した就職件数」は、事業内容がよくわからない。もっと周知してほしい。
- ・Uターン者を斡旋していることを知らない企業もあり、広報不足である。企業側と就職希望者との両面からの情報を把握する必要がある。
- ・就職件数について、年間37人では少ない。相談件数なども含めて設定してもよかったのではないか。
- ・都市と地方、県内でも都市部と中山間地域とで雇用の格差が顕著である。働く職場が減っているように思う。

(「環境首都とくしま」の実現)

環境分野について

環境分野について、徳島県が何かの基準で全国何位と打ち出せると、今後、森林関係、バイオマス等を推進する上で心強いので、トップレベルの指標を掲げてほしい。

(「安全・安心とくしま」の実現)

「木造住宅の耐震診断実施戸数」について

目標値が低いのではないか。防災センター視察時に地震体験をさせてもらったが、「木造住宅では命がない」と思ったくらいである。もう少し力を入れる必要がある。

木造住宅の耐震改修について

木造住宅の耐震診断をしても、経済的な理由で耐震改修まで行わない人が多い。耐震改修の必要性については、建築業者の住民への働きかけには限界があり、行政が住民に対して積極的に啓発していく必要がある。

産科医の充実について

海部病院の産科医がいなくなって残念であり、若者が安心して生活できるシステムづくりが重要である。県南部、西部でも若者が県内に定着することが県全体の活力につながるため、努力をお願いしたい。

道路標識の改善について

交通事故のないまちづくりに関連して、道路工事箇所における表示、誘導が分かりにくいと感じる。標識の表示内容や見やすさをよくしてほしい。

(「いやしの国とくしま」の実現)

青少年の育成施策の充実について

青年洋上大学については、単なる海外旅行とは違って、団体生活の中で得られる貴重な体験であり、意義は大きい。平成18年度で廃止とのことだが、青少年の育成に対しての施策の充実に努めてほしい。

(「ユニバーサルとくしま」の実現)

「点訳奉仕員の養成」について

数値目標は高すぎたのではないか。人員は着実に伸びているので、「ほぼ達成」と評価してよい。

(「にぎわいとくしま」の実現)

県南部の道路整備の促進について

「日和佐道路の整備」、「国道55号阿南バイパス」について、県南住民の気持ちとしては、道路はつながっていないと効果が出ないとの思いがあるため、今後の進捗にさらに努力してもらいたい。

評価結果

評価結果の指標数の集計は、次の表のとおり。

「目標水準・数値目標の達成度評価」結果集計表

区 分	1 オープン	2 経済 再生	3 環境 首都	4 安全 安心	5 いやし の国	6 ユニバ ーサル	7 にぎ わい	計（比率）
1 達 成	1 5	3 9	5 7	6 4	4 8	4 2	3 2	2 9 7(74.0%)
2 ほぼ達成	2	1 7	1 4	1 3	3	1 1	1 6	7 6(19.0%)
3 未 達 成	0	1 0	0	6	1	5	6	2 8(7.0%)
小 計	1 7	6 6	7 1	8 3	5 2	5 8	5 4	4 0 1(100%)
実績値未判明	0	4	3	3	0	0	4	1 4
合 計	1 7	7 0	7 4	8 6	5 2	5 8	5 8	4 1 5

（２）計画の達成状況全般等に関する主な意見について

ワンストップサービス窓口による企業誘致について

NPO団体の窓口では、ワンストップサービスにより成果を上げてきている。このワンストップサービスを、企業誘致にも活かしてほしい。企業にとっては、各種優遇措置の他に、県の各部署にたらい回しされないことも誘致を決めるポイントになる。

外国人観光客について

外国人向けに観光情報をインターネット配信しているホームページのアクセス数は月当たり700万件もある。旅行エージェントだけでなく、こうしたサイトを運営している人を、徳島に呼ぶのも一つの手ではないか。

阿波踊りにについて

阿波踊り最終日の総踊りを楽しみにしていたが、香川に帰るバスの時間の都合で、途中で帰らなければならないと県外客から相談を受けたが、何とかならないか。

商店街の活性化について

新町地区商店街は、駐車場代も高く、シャッター街になりつつある中、私どものNPOは、昨年より1,200人ぐらい利用者が増えている。そのあたり、新町商店街の入り込み客数が増えていないことに疑問がある。

農林水産物のブランド化について

「新鮮なっ！とくしま号」は、あちこちで見かけるようになってきた。消費者は、徳島ブランドや地産地消に敏感になってきており、徳島は農林水産物のブランド化について、がんばっているなと感じている。

ブランド品の商品開発について

青森のリンゴジュースには「ねぶた祭り」の絵が書いてあり、一目で中身がリンゴ、それも青森産だと分かる。本県のスタチジュースなどにも、阿波踊りや渦潮などの絵をデザインするなど、観光客にPRできる商品開発をしてほしい。

周産期医療について

海部地域の漁師の奥さんからは、お産が心配であるという切実な相談を受けている。私たちのNPOでも、お母さんと行政の間にたって活動していく予定であるが、今後は助産師やお母さん達と意見交換をしていくことも必要である。

不妊治療について

不妊治療は、県内で受けられる病院が限られており、受けられる治療サービスも限定されている。県内で治療を受けたいが、県外で治療受けている人や、助成を受けられずに断念している方もいる。

競技力向上スポーツ指定校について

全国大会で活躍できる高校を育てるスポーツ指定校も良いが、どこの高校生も甲子園を目指している。レスリングなど競技人口が少ない場合には必要かもしれないが、野球やサッカーなどをスポーツ指定校にするのには疑問を感じる。